

1. 次世代育成支援行動計画(後期計画)推進事業の実施状況一覧

<評価> ◎=できている ○=ほぼできている △=余りできていない ×=できていない

事業名	方向性	計画策定時の実績(H20年度)	実施状況(実績)					評価	決算額(千円)	問題点・対応等	所管課
			H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H25年度において行った拡充、見直し・改善等の内容及び特記事項等				
12311 青少年ふれあい事業	継続	実施地区数 5地区	6地区 延255人	5地区 (内1地区は 雨天中止) 延226人	6地区 延279人	7地区 延272人		○ 目標を概ね達成できている。	101	地域の実施希望時期が集中すること。また、実施希望地域が予定数を越える申込みがあった場合、全部を受けることができないため抽選を行っている。そのため落選してしまう地域があり、今後は各地域でそれぞれ事業を行っていく土台を作っていく必要がある。今後も継続して実施したい。	青少年育成課
12312 にしのみやキッズ・アウトドア教室	事業終了	実施回数 年間8回	7回 延429人	8回 延421人	8回 延492人	(H25年度 廃止)	【廃止の理由】 社会教育法の整備や生涯学習時代の訪れとともに、NPOなどのさまざまな主体によって、体験活動機会の充実が図られてきている。こうした情勢の中で、「にしのみやキッズ・アウトドア教室」についても、職員が直接係る主催事業としてのあり方についてスクラップ&ビルドの視点からの検討が求められ、24年度をもって事業の廃止を行った。	—	—	—	青少年育成課
12313 野外活動指導者セミナー	見直し・改善	実施回数 年間5回	年間 1回 発達障害についての講義を実施 16人参加	全6回実施 (内1回は 雨天中止) 延36人参加	全7回実施 (内1回は 雨天中止) 延39人参加	全7回実施 延54名参加	指導者講習会を受講したリーダー等を対象とし、さまざまな状況に対応できる野外活動指導者の育成を目指し、事業名・内容について見直しをした。	○ 目標を概ね達成できている。	49	新たな取り組みに対してリーダーの関心を高め、理解を深めていくことが課題である。今後も継続して実施したい。	青少年育成課
12314 野外活動指導者講習会	見直し・改善	新規登録者数 8人	年間 10回 参加者 春23人 秋14人 リーダー登録 15人	年間 11回 参加者 春18人 秋 7人 リーダー登録 14人	年間 10回 参加者 春20人 秋 9人 リーダー登録 7人	年間9回 参加者 春15名 秋4名 リーダー登録 7人	野外活動の基礎知識や技術習得をした受講者が地域での野外活動指導の中心となり、地域団体等が主体的に野外活動事業が実施できることを目指し、事業名・内容の見直しをした。	○ 目標を概ね達成できている。	51	参加者が少なく、広報に工夫が必要である。特に秋は参加者を集める必要性が高い。野外活動リーダー獲得と養成のため今後も継続する。	青少年育成課
12315 子ども映画会	事業終了	延参加者数 1,855人	年間 24回 延1,407人	(H23年度 廃止)	—	—	—	—	—	【廃止の理由】 映画会へのニーズの減少と、各公民館の活動推進委員会でも子ども対象事業を開催していることから廃止した。	中央公民館

1. 次世代育成支援行動計画(後期計画)推進事業の実施状況一覧

<評価> ◎=できている ○=ほぼできている △=余りできていない ×=できていない

事業名	方向性	計画策定時の実績 (H20年度)	実施状況(実績)					H25年度において行った拡充、 見直し・改善等の内容及び特記 事項等	評価		決算額 (千円)	問題点・対応等	所管課
			H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H25年度		H25年度	H25年度			
12316 図書館(児童)サービス	継続	開催回数 おはなし 658回 ビデオ114回 ボランティア 145回	おはなし 687回 ビデオ107回 ボランティア 121回	おはなし 674回 ビデオ110回 ボランティア 120回	おはなし 681回 ビデオ115回 ボランティア 109回	おはなし 715回 ビデオ115回 ボランティア 115回	図書館を身近に感じてもらい、さら に多くの子どもたちに来てもらうよう に努める。	◎	目標を概ね達成できて いる。	648	図書館に関わる各種ボランティア の交流を図り、さらなるサービス の向上を目指す。	中央図書 館	
12317 市内学校における西宮市 オリジナル植物を活用し た環境学習事業	継続	参加人数 1,055人 (4校)	1,619人 (4校)	1,069人 (4校)	1,120人 (4校)	305人 (4校)	教室実施時および育成植物の展 開において、地域園芸ボランティ アやPTAとの連携を強化し、各校 での活動を支援する体制づくりを 進めた。	△	事業の内容は進んだ が、実施形態の変化(授 業内での実施から委員 会活動等が主)による 体験者数減(特に小学 校)のため、事業の効果 が十分に上がったと言 えない。	0	「脱ゆとり教育」による授業時間数 の増加等で、学校・教諭に余裕 が無いことが体験者数減の一因 と思われる。広く実施を呼びかけ るのみならず、引き続き地域・保 護者による支援体制の構築を図 り、支援体制の整った学校から実 施を勧める。	花と緑の 課	
12318 貝類館子ども対象事業	継続	展示・講座・ 行事件数 19件	20件	19件	27件	41件	例年の事業に加え、事前申し込 み不要で子ども向けの「オリジ ナルカタツムリづくり」を月1回実施す ることで、気軽に参加でき、学ぶこ とのできる事業を増やした。また、 新聞や雑誌、学校園配布の情報 媒体などへの情報発信を行い、 子どもやその親の目に留まるよう な広報活動を行なった。	○	事業への参加者の増加 及び来館者数が増加し ているため、一定の効果 は見受けられたと考えら れる。しかし、月1回の事 業が同内容のため、子 どもと親が継続的に参加 できるような工夫が必要で ある。	11,864	貝類へのふれあいから子どもの 文化、自然、環境などの学びに つながる展示や事業実施を持 続的にいき、次世代を担う子ども の育成の場のひとつとして今後も 継続して施設を運営する。	文化振興 課	
12319 0歳からのコンサート	事業 終了	参加人数 538人	315人	—	(H24年度 廃止)	—	—	—	—	—	【廃止の理由】 子育て世代を対象とした事業は いくつかのプログラムで実施して いるが、当プログラムは終了し た。	文化振興 課	
12320 人形劇の定期公演と講座	拡充	定期公演数 5回	定期公演 10回	定期公演 10回 人形劇まつ り 子ども向講 座 大人向講座	定期公演 9回 人形劇まつ り 子ども向講 座 大人向講座	定期公演 9回 人形劇まつ り 子ども向講 座	—	○	年度当初の予定通り実 施した。問い合わせ件数 が増加していることから 事業の周知が進んでい ると考えられる。	1,863	今後継続して実施予定。	文化振興 課	

1. 次世代育成支援行動計画(後期計画)推進事業の実施状況一覧

<評価> ◎=できている ○=ほぼできている △=余りできていない ×=できていない

事業名	方向性	計画策定時の実績(H20年度)	実施状況(実績)					評価	決算額(千円)	問題点・対応等	所管課
			H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H25年度において行った拡充、見直し・改善等の内容及び特記事項等				
12321 文化(音楽)活動	継続	演奏会の開催・参加回数 8回	7回	11回	10回	12回	例年通りの実施に加え、今年度は宮水学園教養講座と三宣言周年記念コンサートへ参加した。	○ 定例的な市の催し・演奏会に出演する機会を提供するとともに、家族で楽しめる機会を提供している。	6,868	少年合唱団の育成については、安定した入団生の確保と練習場所の確保、加えてさらなる出演機会の提供に努める。その他、家族向けの「さよならコンサート」や、小学生などが出演する「西宮市民音楽祭」の開催など、今後もより多くの子どもを対象とした音楽文化の振興を図る。	文化振興課
12322 子ども文化祭事業 “わいわい”こどもフェスティバル	継続	(H22年度新規追加事業)	参加延人数 295人	291人	290人	329人	子ども同士で一緒に楽しめるコーナーを設け、異年齢の子どもが団結しながら競い合うことを通じて、交流につながった。	○ 各コーナーを通して、様々な年齢の子どもたちが交流をもち、協調性や創造性を育むことにつながっている。	400	参加人数が会場並びにスタッフの規模に比して増加の傾向にあり、事業の運営に支障が出ない程度に収まるよう、地域団体とも連携しながら対策を検討する。	若竹生活文化会館
12323 子育てファミリーにこにこコンサート事業	継続	(H24年度新規追加事業)	—	鑑賞者 143人	鑑賞者 174人	鑑賞者 229人	大阪音楽大学音楽専攻科生によるオータム・コンサートを、概ね昨年と同内容で実施した。	○ 鑑賞者の多くは乳幼児を連れた母親あるいは夫婦連れで、アットホームな雰囲気での演奏会を楽しんでいただけている。来場者へのアンケートからも、乳幼児が入場できる催しを希望する声が多いことがうかがえる。	23	事業開始より3年が経過し、今後さらに多くの子育て世代へ本事業の周知・浸透を図り、より多くの方に来場いただけるよう出演大学側との連携を強化する。	文化振興財団
3章 経済的な支援の充実											
13001 乳幼児等・こども医療費助成	拡充	受給者数 35,066人	54,148人	55,241人	(乳幼児等) 39,144人 (こども) 13,655人	(乳幼児等) 33,393人 (こども) 18,801人		◎ 資格要件において、市単独事業を継続することができたため。	1,745,458	引き続き市単独事業の継続を図る。	医療年金課
13002 高等学校奨学金	継続	支給人数 1,873人	2,148人	1,955人	1,736人	1,653人	制度の内容等の周知に努め、引き続き修学困難な生徒に対し支援を行った。	◎ 高校に募集要項を送付し周知を依頼するとともに、市政ニュースやホームページでの広報に引き続き力を入れた。	141,169	申請時期等について、さらに周知を徹底する必要がある。また、国の「奨学金給付金制度」創設をふまえて、給付金額の調整を行う必要がある。	学事課
13003 在日外国人学校就学助成	継続	支給人数 56人	54人	56人	49人	39人	所得審査の方法について検討し、援助を行った。	◎ 平成23年度から補助金を増額し援助を行っている。	3,315	近隣他市の状況も考慮しながら、所得審査の方法や給付額についてさらに検討を重ねる必要がある。	学事課

1. 次世代育成支援行動計画(後期計画)推進事業の実施状況一覧

<評価> ◎=できている ○=ほぼできている △=余りできていない ×=できていない

事業名	方向性	計画策定時の実績(H20年度)	実施状況(実績)					評価	決算額(千円)	問題点・対応等	所管課	
			H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H25年度において行った拡充、見直し・改善等の内容及び特記事項等					
13004 小・中学校就学奨励助成	継続	認定者数 小学4,477人 中学2,182人	小学4,577人 中学2,395人	小学4,644人 中学2,469人	小学4,589人 中学2,468人	小学4,338人 中学2,487人	引き続き援助が必要な保護者に対し、就学奨励金を支給した。	◎	就学奨励金の支給を必要とする保護者に、継続して支援を行っている。	453,539	生活保護基準の引き下げ、消費税増税などの状況と他市の動向を踏まえて対応していく必要がある。	学事課
13005 児童手当(子ども手当)	拡充	受給者数 27,073人	41,610人	41,281人	41,288人	40,930人	24年度児童手当法改正により所得制限による特例給付開始(平成24年6月分から)3歳の誕生日の翌月～小学生(第1子、2子)、中学生…1万円0歳～3歳の誕生日、第3子以降の児童…15,000円特例給付の手当 月額 5,000円	○	平成20年度時点の制度と比較し、手当額の増額、支給対象年齢の拡大、所得制限の緩和が実施された。	8,434,033	今後も制度の見直しが検討されており、当初の計画目標どおりの拡充は難しい。平成26年度中に予定されている、台帳画面オープン化開発業務並びに制度見直し作業への対応	子育て手当課

基本目標2 母と子の健康を支えるまちづくり

1章 子どもや母親の健康の確保

1節 安心して妊娠・出産ができる環境づくり

21101 特定不妊治療費助成事業	継続	助成件数 373件	466件	557件	666件	741件	一部治療方法の上限額の変更(治療内容区分C・F 7.5万円)	◎	助成件数の増加	94,735	平成28年度の制度改正に向け、周知を行う。事業は国の要綱に基づき、継続する。	健康増進課
21102 双子・三つ子の親になる人のつどい	継続	開催回数 6回 参加人数 54人	6回 42人	4回 48人	4回 62人	4回 37人		○	多胎妊婦数は減ってきているものの、多胎妊婦、産婦が抱える不安は大きく、本事業は虐待予防や育児不安の解消につながっていると考えている。	82	年々、多胎妊婦が減少してきている(不妊治療方針が変わり、多胎妊婦が減少している為)。今後多胎妊婦が減少していく可能性があるため、事業の運営方法も検討が必要になるかもしれない。	健康増進課
21103 出産育児一時金	継続	受給者数 518人	487人	496人	462人	432人		◎	出産費用の一部を支給することにより、出産時の経済的負担の軽減に資しているため。	180,032	—	国民健康保険課
21104 助産費用の助成	継続	利用件数 0件	0件	0件	1件	1件		◎	事業を実施している	427	現在、助産施設として利用できるのは尼崎医療生協病院と済生会兵庫県病院のみで、市内に助産施設がない。県立西宮病院を助産施設として利用できるよう県副市長会で要望している。	児童・母子支援課

1. 次世代育成支援行動計画(後期計画)推進事業の実施状況一覧

<評価> ◎=できている ○=ほぼできている △=余りできていない ×=できていない

事業名	方向性	計画策定時の実績 (H20年度)	実施状況(実績)					H25年度において行った拡充、 見直し・改善等の内容及び特記 事項等	評価		決算額 (千円)	問題点・対応等	所管課
			H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H25年度				H25年度		
21105 育児セミナー(両親学級) 【重点】	見直し・ 改善	参加者率 36.7%	参加組数 697組 参加者率 33.0%	768組 35.8%	727組 36.4%	739組 36.1%	1、西宮市の子育て支援サービスの説明資料にパワーポイントの資料を用いた 2、休憩時間中に帰宅する参加者がいたため、休憩時間を5分短縮した。 3、会場内が混雑していたため、セミナー開始前の赤ちゃん抱っこ体験を廃止した	○	パワーポイントの資料を作成し、参加者にも資料を配布しているが、セミナー後のアンケートでは、わかりづらいという意見があるため。	108	1、西宮市の子育て支援サービスについて、参加者にわかりやすく説明を行う。 2、セミナー開始前の妊婦疑似体験の出務スタッフを増員し、会場全体の見守りを担当者が行う。	地域保健課	
21106 出産前小児保健指導	見直し・ 改善	産婦人科 紹介者数 92件 小児科相談 利用者数 78件	(産婦人科) 59件 (小児科) 38件	52件 43件	64件 29件	61件 23件		○	予防接種の開始時期が早まったことと保健センターも市内5ヶ所に増設されたことで本事業が目指す妊娠期からのニーズに応えやすい環境が整備されてきた。それに伴い本事業は実施件数等の状況は変わらないが、必要時に活用できる事業として補助的に実施している現状である。	499	事業実施の方法について、産婦人科医、小児科医とともに検討する。	地域保健課	
21107 妊婦健診費用助成事業 【重点】	継続	申請者数 5,441人 助成回数 19,991回	5,280人 58,191回	5,286人 57,343回	5,035人 55,646回	5,196人 55,977回	ホームページや「よくあるご質問」の充実、妊婦健康診査受診・妊婦歯科検診受診普及啓発ポスターの作成、転入者向けのチラシや妊婦向けご案内のリニューアル等、広報に力を入れた。	○	H25年度から県からの補助金がなくなり、市の予算のみで行うこととなったが、予算不足による事業の中断など特になく、西宮市妊婦に対し、妊婦健診費用助成を行った。	292,533	本市の公費負担額は、全国や兵庫県内と比較して平均負担額を下回っている。今後も懸案課題として他市の状況を注視し、助成内容について見直しを行う。	地域保健課	
21108 妊産婦健康相談	事業 終了	開催回数 12回 相談者数 39人	18回 52人	18回 45人	(H24年度 廃止)	—	—	—	—	—	【廃止の理由】 母子健康手帳や妊婦健診費用助成券発行時になるべく保健師が対応することにより、多くの妊婦が相談できるようになった。また、助産師による妊婦訪問も実施しているため事業廃止とした。	地域保健課	